

nite



認定機関(NITE認定センター (IAJapan)) の取り組み

中間とりまとめ以降の状況についての報告

独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE)

2024/12/09

1. 各課題への取り組み状況（まとめ）

論 点	対応方針	取り組み状況（2024年12月時点）
①規格開発段階からの認定機関の関与	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報やアドバイス提供を可能とする体制整備（NITE適合性評価戦略室の機能、調査能力等の強化） ・ 認証スキーム構築に必要な情報や知見の提供、技術的支援を効果的に実施するための研修プログラムの、持続的開発・試行、機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際レベルの認証スキーム開発に関する情報収集等として、APAC AI分野のTFへの参加、適合性評価に関する国際規格（ISO/IEC 17067、ISO/IEC 17043）改正に国際エキスパートとして参加し、関係者に情報発信 ⇒ 2. 人材育成 3. 情報発信 ・ 令和5年度に開発・開講した「社会実装・規格活用」実現化人材育成プログラム履修者に、適合性評価の最新技術、手法等の紹介、意見交換を目的としたフォローアップ研修を実施（2024/08）⇒ 2. 人材育成
②認証対象分野の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認証・認定ニーズ動向の、国内関係者への情報提供発信機会の増加 ・ 国内企業等の認証ニーズの把握 ・ 欧米やアジア地域等国際的な展開の可能性に関する探索 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内各種セミナー等の機会に、適合性評価制度構築や関連ツールである国際規格の開発・改正動向などを積極的に情報発信 ⇒ 3. 情報発信
③コンサル機能やソリューションの提供	<p>ケースの想定に必要な調査や意見交換機会の創出に適した方法の検討を行うとともに、必要な情報を集積し、認証機関に適用される要求事項に対する見解を提示するための窓口の創設に必要な準備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームNITE(※) を窓口とした相談体制の整備 ・ 人材育成プログラム履修生からの相談体制整備 ⇒ 2. 人材育成 ・ JIS登録認証機関協議会（JISCBA）との連携の調整を開始

1. 各課題への取り組み状況（まとめ）

論 点	対応方針	取り組み状況（2024年12月時点）
④ 情報提供、研修への期待	規格の活用に資する認証制度等適合性評価制度の構築、運用に参画する人材にとって必要な情報、知見等の獲得の機会として令和5年度に開発した育成プログラムの提供を継続するとともに、同プログラムコンテンツの充実、最新化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に実施した「社会実装・規格活用」実現化人材育成プログラムの参加者に対して、第1回フォローアップ研修を提供【再掲】 令和6年度も引き続き、同育成プログラムを提供 2024年12月26日～2025年2月6日（全5回） ⇒ 2. 人材育成
⑤ 可能なコンサルティング行為の範囲の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ④の研修機会の活用 日本認定機関協議会（JAC）が提供するセミナーの機会の活用 同協議会の作業部会（WG）におけるテーマとして、コンサルティングに係る検討、認証機関への参加機会の提供等の議論の機会を創出するための検討の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の「社会実装・規格活用」実現化人材育成プログラムコンテンツ内での「コンサルティング」関連テーマを充実予定 ⇒ 2. 人材育成 日本認定機関協議会（JAC）にWGを設置し、検討を開始（2024/06～） ⇒ 4. JAC活動 マネジメントシステム分野はJABを中心に、NITEはそれ以外の分野を担当し検討開始（認証産業活用の在り方検討会に参加する3つの認証機関へのヒアリングを実施） ⇒ 4. JAC活動 JIS登録認証機関協議会（JISCBA）幹事会において、当該テーマの説明を行い、今後の連携についての調整を開始 ⇒ 4. JAC活動

2. 人材育成

「社会実装・規格活用」実現化人材育成プログラム 第1回を2024年2月1日～29日に開催



NITE「社会実装・規格活用」実現化人材育成プログラム

有望技術の実用化やその技術を用いた新製品開発において、研究開発段階からその評価基準となる規格の活用・普及の取り組みを並走させることが、社会実装への近道です。本講座では、NITEが行う公的評価の高い信頼性や有する専門性、そして関係機関とのネットワークを活用し、実際の社会課題等を題材として、社会実装を加速させる人材育成プログラムを提供します。

講座案内

講座名：「社会実装・規格活用」実現化人材育成プログラム

定員
20名

テーマ：適合性評価の基礎知識、適合性評価スキーム構築スキルの習得
形式：座学形式、グループワーク形式併用

主催：独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)

開催日：2024年2月1日・8日・15日・22日・29日 (すべて木曜日) **5週連続開催**

時間：午後 (時間帯は日別に異なります)

会場：NITE内 会議室 (東京都渋谷区西原2-49-10)

最寄駅：京王新線「幡ヶ谷」駅から徒歩約10分
小田急線・東京メトロ千代田線「代々木上原」駅から徒歩約15分

受講料：無料 ※交通費、他の費用については各自でご負担ください。

定員：20名 ※先着順ではありません。詳しくは募集要項をご覧ください。



■ 申込締切日：2024年1月19日 (金) 17:00まで
■ 申込方法：下記ウェブサイトにごアクセスいただき、お申し込みください。

● プログラム概要：適合性評価の基礎知識、適合性評価スキーム構築スキルの習得

日程	講義内容	講師/形式
2月1日	【適合性評価の基礎知識】 標準化と適合性評価の関係、適合性評価スキームに関する基本的な知識を理解する。	江藤教授 (一橋大学)、平沼専務理事 (SIAA) ^(※1) 、NITE/座学
2月8日	【適合性評価制度の事例分析】 ものづくりのプロセスを踏まえた認証機関の役割、具体的な適合性評価制度の事例について学ぶ。	浅田理事 (JQA)、岩瀬氏 (ARC) ^(※2) /座学
2月15日	【適合性評価スキームの開発とツール】 国際的な適合性評価スキームの開発・導入の動向について学ぶ。また、適合性評価スキームに用いられるツール (試験、検査、監査、妥当性評価&検証) の役割と意味について理解する。	NITE/座学
2月22日	【適合性評価スキームの構築演習】 スキームオーナーの役割を学んだ上で、これまでに習得した知識を活用して実際に適合性評価スキームの構築演習を行う。	浅田理事、千葉氏 (JQA)、NITE/座学・グループ演習
2月29日	【演習のまとめ、適合性評価と認定制度】 演習で構築した適合性評価スキームの内容や改善点について、講師の講評を交えながら振り返る。最後に、適合性評価における認定制度の活用について学ぶ。	浅田理事、千葉氏 (JQA)、NITE/座学・グループ演習

企業 (電機、薬品メーカー)、研究機関、適合性評価機関などから26名が受講

- ・ 受講生の多くは、規格活用について学び、適合性評価や認証についての知見を取得したいとの目的があり、**8割以上の受講者が、「とても満足」、「満足」と回答**

2. 人材育成

「社会実装・規格活用」実現化人材育成プログラム

第1回（1期生） 2024年2月1日～29日 26名



相談窓口
個別制度
業界、国際団体

ISO CASCO WG65での専門家間の議論、整理
WG65：ISO/IEC 17067改正WG
ISO/IEC 17067： 適合性評価スキームの原理原則とガイドライン
(現製品認証スキームガイドライン)
すべての適合性評価制度の共通フレームワークを提示

コンサルタント業務に関する課題抽出

フォローアップ研修（第1回）2024年8月

- 1) 適合性評価スキームの適切性判断に必要な知見の習得
- 2) 適合性評価の最新技術、手法等の紹介、意見交換

コンテンツのアップデート

合流

第2回（2期生） 2024年12月26日～ 20名前後

フォローアップ研修（第2回 2025年3月）（第3回 2025年6月）

- 1) 「予防原則と実証主義」、「妥当性確認・検証」と「認証」
 - 2) ハイブリッド認証
 - 3) マネジメントシステム認証とサービス認証
 - 4) 「試験、検査、監査」と「認証」の未来形
 - 5) 目的を実現する適合性評価制度の構築手法
- などを予定

3. 情報発信

- 国内各種セミナー等の場を利用して、適合性評価関連の国際規格の開発・改正動向を含む、適合性評価制度に関する情報を精力的に発信（今後も広く、アップデートされた情報を発信）

- 1) 人材育成プログラムフォローアップ研修（2024年8月28日）
- 2) 北陸未来共創フォーラム講演（2024年9月27日）
- 3) 日本品質管理学会（JSQC）管理技術部会第14回知識共有／勉強会（2024年10月11日）
- 4) JAC運営委員会（関係省庁部局向け）
- 5) JACセミナー（2024年10月25日）

2024年度 JAC セミナー

●テーマ「認定：明日を導き、未来を形づくる」

日本認定機関協議会（JAC）では、広報活動の一環として、JAC セミナーを開催いたします。

・ JAC メンバーの加盟している国際認定フォーラム(IAF)と国際試験所認定協力機構(ILAC)は、「認定」の重要性を、より多くの方々に知ってもらう取り組みとして6月9日を「世界認定推進の日」(World Accreditation Day)と定め、毎年様々な認定に関わる社会的テーマに沿った広報活動を展開しています。今年のテーマは「認定：明日を導き、未来を形づくる」(Accreditation: Empowering Tomorrow and Shaping the Future)です。

本年度のセミナープログラムもこれに沿った、「認定：明日を導き、未来を形づくる」をテーマに、ご紹介いたします。

皆様のご参加をお待ちしています。

- セミナープログラム：(本頁下よりご覧ください)
- 日 時：2024年 **10月25日** (金) 13:00～16:30
- 会 場：オンラインセミナーにて実施
- ※申込者に後日詳細をご連絡します。
- 定 員：400名 ※**参加費無料**
- お申込み：[JACホームページ](#) [セミナー受付ページ](#)
- 主 催：日本認定機関協議会 (JAC*)
- *詳しくは、最終頁「JACとは」をご覧ください。
- お問合せ先：独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE) 認定センター(IAJapan)
E-mail: jac@nite.go.jp

13:30～14:30 (60分) 【講演1】	<p>講演者：独立行政法人製品評価技術基盤機構 認定センター (IAJapan) 公益財団法人日本適合性認定協会 (JAB)</p> <p>演 題：JACの概要と活動のご紹介 メンバー認定機関からの情報提供</p> <p>概 要：近年多様化する適合性評価に関する課題に対して、日本認定機関協議会 (JAC) は、国内認定機関で協力し、国内での取り組みを進めています。本講演では、JAC の概要や戦略的な活動を各メンバー機関からのトピックを交えて紹介するとともに、講演2以降にもつながる話題を提供いたします。</p>
14:30～14:40	質疑応答
14:40～14:55	休憩
14:55～15:20 (25分) 【講演2】	<p>講演者：一般社団法人セルフケアフード協議会 代表理事 山本 万里 様</p> <p>演 題：食による健康長寿社会の実現を目指す～G-Plus食品の認証～</p> <p>概 要：我が国では「健康機能性」等を探索する研究が盛んに進められており、様々な農産物・食品の健康機能性が解明されてきました。ここでは、農林水産省関連の民間認証制度を活用した健康維持増進のためのG-Plus食品の認証の仕組みを紹介します。</p> 
15:20～15:25	質疑応答
15:25～15:50 (25分) 【講演3】	<p>講演者：一般社団法人日本品質保証機構 (JQA) 安全電磁センター試験部サイバーセキュリティ課 藤田 悠平 様</p> <p>演 題：サイバーセキュリティの概要と適合性評価標準</p> <p>概 要：OT (Operational Technology) とIT (Information Technology) の融合は、製造業や社会インフラの分野で大きな変革をもたらしています。この融合により、物理的なシステムとデジタル技術がシームレスに連携し、効率性や生産性の向上が期待されています。DXを推進し、「Lighthouse (灯台)」と呼ばれる先進的な工場が登場すると同時に、サイバーセキュリティのリスクも増加しています。本講演では、いち早くサイバーセキュリティ規制の導入を進めているEUの話題を中心に、最新の規制動向と規格の概要についてご紹介します。</p> 
15:50～15:55	質疑応答
15:55～16:20 (25分) 【講演4】	<p>講演者：国立研究開発法人産業技術総合研究所(AIST) 情報・人間工学領域 連携推進室 チーフ連携オフィサー 杉村 領一 様</p> <p>演 題：ISO/IEC 42001に基づく新たな適合性評価への期待</p> <p>概 要：2023年12月に、責任あるAIシステムの開発や提供、利用するために組織が順守すべき要求事項を定めた「ISO/IEC 42001 (AIマネジメントシステム、AIMS)」が発行されました。また、AIMSの審査機関向けの要求事項を定めた国際標準規格ISO/IEC 42006 もまもなく発行されます。ISO/IEC 42001に基づく新たな適合性評価への期待について、国際標準化の動向等をご紹介します。</p> 

- 6) 標準化制度に関するINPIT職員向けセミナー（第3回）（2024年11月12日）

4. JAC活動（1）

日本認定機関協議会（Japan Accreditation Council：JAC）



- 2005年、日本工業標準調査会（当時）（Japanese Industrial Standards Committee: JISC）の要請を受け、設置
- 認証産業活用の在り方検討会提言に対応すべく、WGを設置

（活動範囲）

第6条 本会の活動範囲は、次のとおりとする。

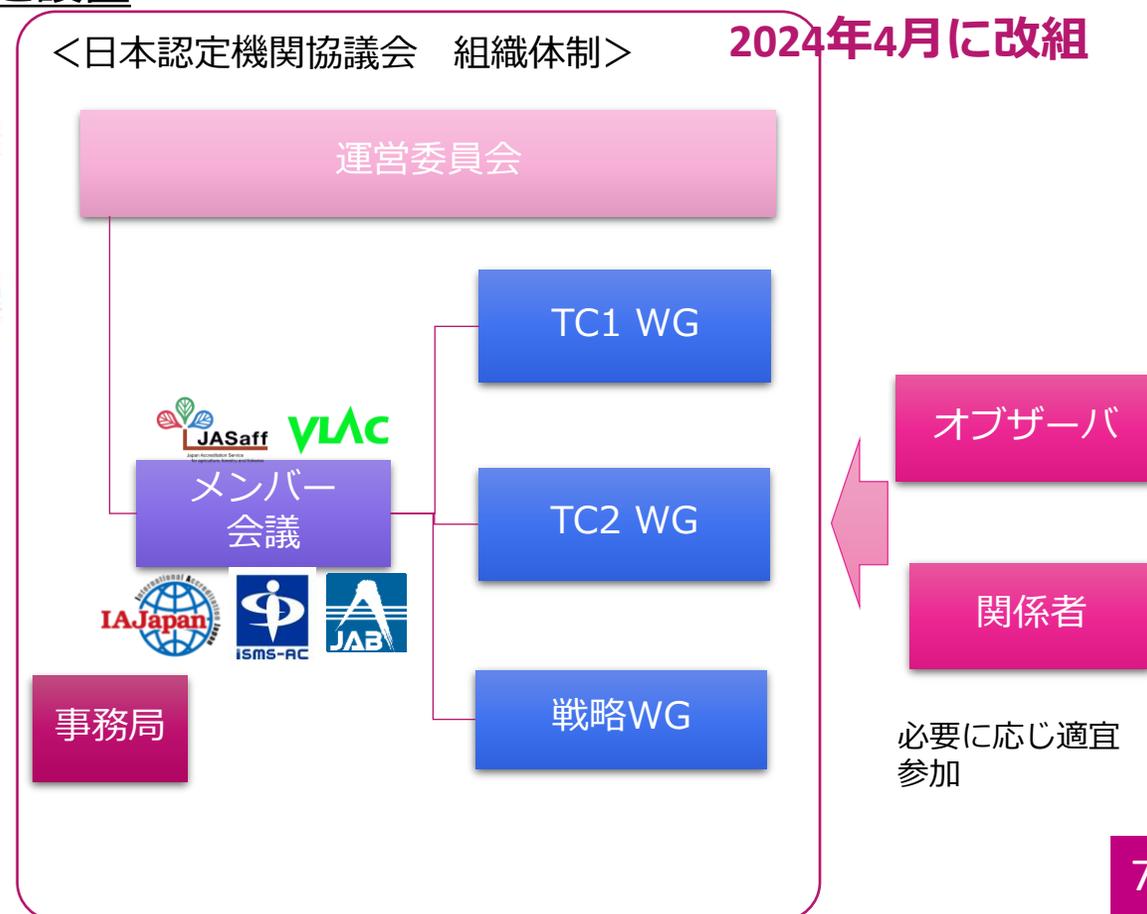
- 認定の同等性を確保するための、認定審査員養成共通研修、認定審査員向けセミナー等の開催
- 認定結果の相互受入れや合同審査の実施に関する検討、
- IAF、ILAC等の認定機関の国際フォーラムへの対応、
- 認証機関や試験所等、さらには、消費者団体や事業者団体など認定制度のユーザーとの意見交換を通じた認定制度の継続的改善
- 日本産業標準調査会（JISC）を通じたISO/CASCOへの提言活動、
- 認定制度に関する普及広報活動
- その他、メンバーが必要と認めた活動



WG名称	概要
TC1 WG	試験所、校正機関、標準物質生産者、臨床検査室、検査機関、技能試験提供者の認定に関連した基盤的な課題の検討
TC2 WG	日本におけるマネジメントシステム認証機関、製品認証機関、要員認証機関、妥当性確認・検証機関の認定に関連した基盤的な課題の検討
戦略WG	日本における、適合性評価及び標準化活動の活用機会拡大のための共通課題や戦略的課題の検討を行う

＜日本認定機関協議会 組織体制＞

2024年4月に改組



4. JAC活動（2）

検討課題	担当WG	課題内容
コンサル、公平性	戦略WG	認証・認定活動におけるコンサルタント業務又は公平性に対するリスクとはみなされない業務の特定のための検討、意見交換、提案
国際機関統合対応	戦略WG	ILACとIAFの統合に向けた準備・対応
DX対応	TC1 WG	適合性評価機関が発行する校正証明書・試験報告書等のデジタル化及び利用に向けた課題共有、相談

